

都道府県別賞一等

保険は未来の希望

鳥取県 鳥取大学附属中学校 一学年

木村 花菜子

私は産まれてから数カ月の間、母と離れて暮らしていた。出産前の検診で、母に悪性の腫瘍が見つかり、出産後もしばらく入院して治療や手術を受けていたためだ。母は病気にとてもショックを受け、何より産まれたばかりの私と一緒に過ごせないことが大変辛く、悲しかったそうだ。

母は育児休暇中で収入が減り、治療や手術には多額の費用が必要だったが、医療保険に加入していたため、金銭面の不安はなく、お金の心配をすることなく治療に集中することができたそうだ。そして母の病気は治り、今、私は母と一緒に暮らすことができている。保険がなければ、母は、病気だけでなく、医療費の心配もしなければならなかっただろう。本当にありがたいと思う。

保険とは、予測される事故・病気等の発生確率等に基づいて算定された保険料を加入者が掛け金として負担し、大きな共有の準備財産を作り、病気になったり被災したりした場合にはその中から保険金が支払われる、いわば助け合いの制度だ。詳しく調べてみると、一概に保険といっても、いろいろな種類があることが分かった。病気に備える医療保険やガン保険、死亡時に保険金が支払われる死亡保険、将来の介護サービスを受ける際の出費に備える介護保険、その他突然の事故に備える自動車保険や被災に備える火災保険、地震保険などがある。

我が家ではどんな保険に入っているのか、両親に聞いてみると、それらの保険全てに加入しているわけではなく、家の事情や家族のニーズに合わせて加入しているのだと教えてくれた。たとえば、我が家はすぐ目の前に山があるため、土砂災害時に家財が保障される火災保険に加入している。一家の大黒柱である父は死亡保険に加入している。一方、私の医療費については、市の小児特別医療費助成制度により高額負担にはならないため、医療保険には加入していない、といった具合だ。

私達の日常は一見平穏だが、実は常に病気、事故、地震や火事などの災害に見舞われる危険性がある。それらのリスクから命や財産を守るため、保険はなくてはならないものだと思う。もし保険に加入していなければ、人は病気や被災の悲しみに加えて、多額の治療費の支払いや、財産の損失という辛さを抱えていくことになる。しかし、経済的な救いがあれば、将来の生活を立て直す希望になるだろう。母が保険で助けられたように。

第54回中学生作文コンクール

自分が家族の幸せのために、自分に合った保険を探して自分を守っていくことが大切だと思う。